

2016 春季生活闘争・妥結情報

2016. 4. 6 -第7号- 連合北海道 春季生活闘争本部

中小回答ゾーン＝「底上げ春闘」これからが本番

－ 3月31日集計＝前年実績を551円(0.20%)上回る －

第1先行組合(3/14～18)・第2先行組合(3/22～25)・中堅・中小集中回答(3/26～31)ゾーンのヤマ場を終えて、妥結報告は61組合となったが、昨年の76組合より、やや遅れ気味の妥結状況である。(4月1日17:00報告〆切り 集計可能組合43、情報非開示組合を含む)

月例賃金の加重平均では、妥結額5,921円(2.31%)(定昇・ベア込み)で、昨年同時期(2015年3月31日)の集計可能68組合5,370円(2.11%)を551円(0.20%)上回っている。(組合規模別の妥結状況は下表を参照のこと。)

【組合規模別 賃上げ状況 2016年3月31日結果 連合北海道集計】

組合規模	集計組合数	対象組合人数	加重平均 妥結額 (定昇・ベア込み)	昨年実績額 (定昇・ベア込み)	昨年比
～99人	13	656	2,730円(1.45%)	2,855円	-125円
100～299人	10	1,777	4,768円(2.50%)	4,379円	+389円
300～999人	12	6,171	5,297円(2.03%)	5,023円	+274円
1,000人～	8	20,778	6,267円(2.39%)	5,960円	+307円
計	43	29,382	5,921円(2.31%)	5,370円	+551円

昨年と集計組合に相違があるため単純比較はできないものの、99人以下で残念ながら昨年実績を下回っている。一方、100～299人の組合、300～999人の組合、1,000人以上の組合での健闘が目立つ。

全国的には、すべての組合規模で昨年比マイナスとなっている中、北海道においては、現段階で昨年実績を上回っている。また、非正規労働者の処遇改善についても、正社員を上回る回答を引き出した組合もあり改善が図られている。

今年は昨年に比べ約1週間早いヤマ場の設定であったが、先行・中堅労組の交渉は、原油安や中国経済の減速懸念に加え、株安・円高などの不安定な動きを懸念した経営側の慎重姿勢により、妥結が遅れている状況にある。

一方で、賃上げを行った組合においては、道内中小企業を中心とした人手不足や、大手との格差解消を全面に打ち出した労使の真摯な話し合いの結果、昨年を上回る回答を引き出した組合もある。

連合北海道は、3月末時点における妥結結果に対して、「持続性」「月例賃金」「広がり」「底上げ」の4つのキーワードにこだわり、「人への投資」の必要性について粘り強く訴えてきた。そうした取り組みの結果、月例賃金の引き上げを継続して実現させたことは大きな成果である。また、3月末までの賃上げ集計結果では、一定の賃上げ水準を維持しており、中小組合でも継続した賃上げの獲得がなされていると判断する。

未だエントリー組合の25%程度しか回答を引き出しておらず、「底上げ春闘」はこれからが本番である。

3月までの結果をこれからの地場中小組合の交渉に波及すべく、連合北海道、構成組織、地域協議会、単組、地区連合は、互いに連携を強め、月例賃金の引き上げをすべての働く者の処遇改善につながるよう、最後までともに闘うことを誓い合おう。

今後も連合北海道は妥結情報を発信する。(次回の規模別の賃上げ状況集計は、4月前半の結果を4月20日(水)に発表する予定。)